



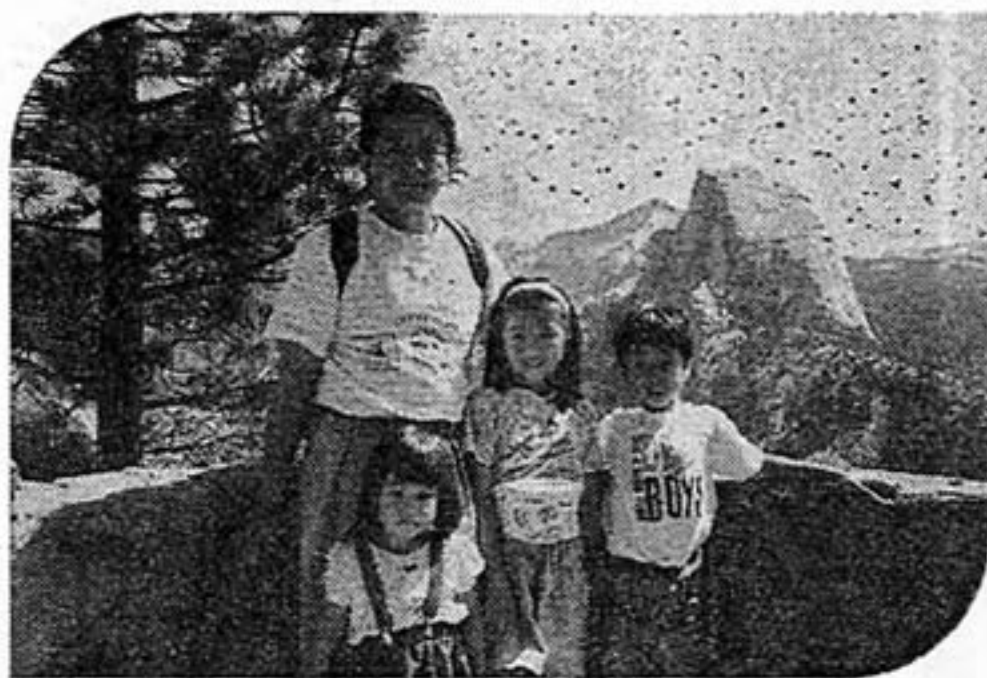
♡♡♡④

米・ロサンゼルス
6年在住体験
平木 博美

娘は登校拒否 夫と会話続かず…

と逆にしかられ、六歳の娘

と母親の私は
お互い、しっ
た激励した
り、されたり
の毎日だっ
た。
家の中で歩
けるようになって
くても登校は



香織ちゃん(中央)は、大きくなったら、けがの
人を救うため看護婦さんになりたいと話している

しなさいと言いつつ、無理強
いもできず、しつこく思いた
った。そんなある日、日本
は、私も安心した。

思い切って話し合い

みんなが責任を感じて 暗くなっていたとわかる

語補習校の担任の先生がお
見舞いに来て、クリスマス
会の劇で香織に演じてほし
い役がある、と話し、登校
するよう誘ってくださった。
その夜から、気持ちが

小さいころからアメリカ
にあこがれ、留学もし、駐
在生活も大いに楽しんでい
た私だったが、事故のショ
ックは大きく、日本に帰り
たい思いが強くなってお
り、登校したくないという
香織を口実にいったん帰国
しようかとまで思っていた。
娘の方が先に精神的に
ひと山越えたことで、母親
も現実から逃げることは許
されない、と再認識するこ
とになった。

なごじになったと責任を感じ
ていたと言いつつはない
か。香織も自分の座り方が
悪かったと自分を責め、私
も自分の運転を責め、皆で
自責の念で精神的に参った
のでは傷が治るよんごじは
ないと、家族皆でよんごじ
認識し合うことができた。
その日から、家の中は元の
ように明るくなり、何でも
話し合える雰囲気に戻っ
た。

そのころ、宅配便が届い
た。驚いたことに、持って
帰るのが無理だとあきらめ
て病院に置いてきた荷物を
すべて、病院が送料を負担
して送り返してくれたのだ
った。病院の配慮にいくら
感謝してもしきれないほど
だった。

交通事故には遭わないで
すむ方がよい。しかし、私
たちは事故に遭
ったことで、多
くの人の温
かい思いやりに
触れ、見返りを
期待しないボラ
ンティア精神の
素晴らしさを感じ
取った。多く

の人びとの支えで、娘の命
は助けられ、家族のきずな
も強くなった。事故が起き
たのはだれの責任でもな
い、私たち家族に与えられ
た運命だったと思うし、娘
がいつも前向きに、明るく
その運命を受け入れてこれ
たことが、間違いなく命を
救ったのだと思う。

傷跡が残っているものの、
香織は後遺症に悩まされる
こともなく、元気いっぱい
の小学生になっている。将
来、看護婦になって、ほか
の人を助けてあげたい、と
話している。(おわり)

事故を乗り越え 強まったきずな

しかし、事故後、主人と
も会話が続かないのが私に
とっては心の重荷だった。
意を決して事故は私の責任
だと思っていないか、聞いて
みた。すると思いがけず、
主人は主人で、旅行先で具
合が悪くなったためにこん

監修

小木曾道子



元気に大きくなった香織ちゃん(左から二人目)と平木
さんの家族全員(今年五月撮影)